

# 小学部だより

筑波大学附属

桐が丘特別支援学校

小学部通信第8号

2014. 10. 31. 発行

第50回運動会では、持てる力を精一杯出し切り、正々堂々と戦う子どもたちの姿が印象的でした。学習発表会でも、これまで学んできたことを舞台の上で堂々と発表する姿がみられることでしょう。ぜひ、お子さんの成長を感じていただき、さらなる成長につながるような言葉をかけてあげてください。これまで学んできたことが、その後につながっていくことを願っています。



## 遊びを創る



上の左の写真は、理科の教材で使う空気でっぼうです。筒の部分はプラスチック、弾はスポンジ製です。一方、右の写真は、昔の子どもたちがよくつくって遊んだ竹製の空気でっぼうです。弾は、ちょうどいい大きさの実や、新聞紙を湿らせて丸めたものを使っていたそうです。

昔は、自然の素材でおもちゃや生活の道具など様々なものをつくりました。その時代を知っている人たちは、「必要なものがあれば自分でつくり出せばいい」と思えますが、はじめから出来上がったものに囲まれている今の人たちは、「なければつくる」という発想自体があまりないかもしれません。

空気でっぼうも自然の素材でつくと、竹の種類や太さを選びますし、どこで伐るとよりよくつくれるかを考えるようになります。また、つくったり遊んだりする中で、自然条件などについて自ずと学びます。本当の学びとは、結果が合っていたかどうかということよりも、過程の中でどれだけ考え工夫できたかということなのかもしれませんね。



「昔は小刀一つで何でもつくりました。」

手製の竹とんぼ。  
「よく飛ぶように、  
重心や揚力を考えて  
つくります。」

